

馬がつなぐ
誰もが幸せに
暮らせる
コミュニティ
づくり



馬、福祉
地域資源を
つなげて

共同設立者
理事

きびはら
黍原 豊

岩手沿岸でトラウマ反応のある小中高生



1 / 8

公的な調査でも、ケアの必要な子どもが多い結果

岩手沿岸12市町村で要サポートの小中高生

2,691人

※

約8人に1人の割合（13.1%）

- 沿岸は不登校の割合が高い
- 自己有用感の低下を実感
（学校現場の声）
- 沿岸でDV相談件数の増加
（親のストレスの増加）
- 専門家の間ではケアの長期化を予想

※ = 出典

岩手県教育委員会 令和元年度
「心とからだの健康観察」の
集計結果

優先的に教育相談をしてほしい児童
生徒（要サポート）の人数。要サ
ポート=4種類のトラウマ反応項目の
うち、1項目でも該当する児童生徒

背景 震災後の 子どもの状況

いわて こどもケアセンター

- 新規受診は
数ヶ月待ち
- 治療の長期化
- 時間を経て不調を
訴える例も

息の長い支援体制が
求められる

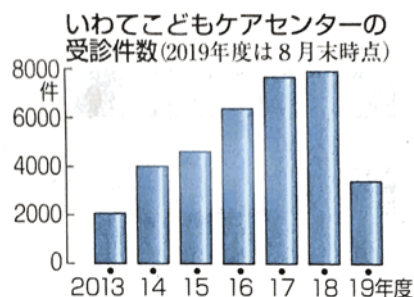
平成

2019年（令和元年）12月11日（水曜日）

総 合 （4）

被災地の子 心のケア増

18年度・いわてセンター



県によると、同センターは心のケアを中長期的に担う拠点として13年度に開設。県の委託で岩手医大が運営する。受診数は13年度の2063件から年々増加し、17、18年度は7千件台。本年度は8月末時点で3391件と前年度を上回るペースにある。

18年度受診者の年代別は未就学児9・8%、小学生45・7%、中学生32・2%、高校生12・3%。震災を経験していない未就学児の受診も一定数ある。

同センターは児童精神科医が週5日診療に当たるほか、県立宮古、釜石、大船渡の各病院で週1回の巡回

県議会12月定例会は10日、東日本大震災津波復興特別委員会（高橋元委員長）を開いた。県は被災地の子どもの心のケアする「いわてこどもケアセンター」の2018年度の受診数が7900件で、過去最多だったと説明した。治療の長期化のほか、時間を経て不調を訴える例もあり、息の長い支援体制が求められている。

過去最多
7900件受診

時間経て不調訴えも

会
議
特
別
委
員
会
復興
県復

診療を実施。運営費には国の復興財源を充ててきた。同大児童精神科の八木淳子診療部長によると、子どもの生活環境の変化やストレスの長期化などで数年を経て苦悩が表れる場合もある。「トラウマの子どもに与える影響への理解と支援、介入の継続が必要だ」

精神不調
出産72人中21人

文科省研究班

厚生労働省によると、出産1ヵ月後に産後うつ病を発症した疑いのある母親は8・4%（13年度）。研究班は、産後ではなく子が3〜4歳時点で調べてお

大きな災害直後に生まれた子どもの発達環境に生じた国内調査は初めて。研究班は15年10月・16年3月、3県の11年度生まれの子どもと母親計72組に調査を実施した。津波被害が大きな被災地である宮城県に所在した沿岸部にある保育所であった3歳児クラスをのぞき、調査への協力を申し出た母子が対象。県別では、岩手30組、宮城16組、福島26組。精神科医や臨床心理士が母親に面接したところ、約3割にうつやアルコールなどに関連する問題がみられた。居住地による大きな差

まれるが、精神不調のみられる割合の高いことがうかがえる。

また、子どもの発達状況を把握するため、絵画を使

って語彙力を問うなど4種類のテストを実施。4人に1人は認知機能の発達が遅れている疑いがあり、じっとしてられないなどの問題行動がみられる子も約2割に達した。いずれも標準を上回っていた。

研究班は今年3月までに

計約250組を調べた。母親の精神状態は最初の調査と同じ傾向が出ているという。今後、子ども達の発達との関連を分析し、子どもが中学を卒業するまで同じ親子への調査を続ける。

「いわてでもケアセンター」（岩手県矢巾町）副

センター長も務める八木師は「震災後の生活環境変化によって出産した母がストレスを抱え、幼い子どもたちが親の精神状態に影響を受けた可能性が大きい。災害後生まれの子の庭にも支援が必要だ」と話す。

【黒田阿紗子

【黒田阿紗子】

母親の不安が影響





馬の力で子ども達を元気に！



築95年の古民家（馬と人が共に暮らす）



なぜ馬？(1) アニマルセラピーの王様

馬の背中の揺れ、歩く練習に

からだ

馬の暮らし

脳・感覚

こころ

脳を育てる
様々な感覚刺激

自己有用感や
主体性を育む

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



なぜ馬？(2)

地域の文化を活かす

地域と馬との親和性



「馬がいると懐かしい」という感覚

8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



元々、馬と共に暮らし、働いていた

なぜ馬？(3) これからの在り方を示す

- 馬の暮らし、生態
 - 一期一会（馬は、誰とでも平等に接する）
 - KY（空気 読める＝非言語コミュニケーション）
 - マインドフルネス（馬は、過去を引きずらない）
 - 固定化しないリーダー（その時に必要な馬がリーダーになる）
 - 多様性を認める（様々な個性が群れに存在する）
- 今後、求められる組織・社会を馬から学べる
犬型 → 馬型 へ（ピラミッド型 → ティール型 へ）



1. 商品・コンテンツの開発

- 馬、古民家を活かした新たなサービス
- 地域資源の活用（耕作放棄地、世界遺産、郷土料理…）

2. エビデンスの獲得

- ホースセラピーの効果（分かりやすく。数値で）

3. 認知、理解の促進

- プロモーション、広報戦略の立案
- 支援者の獲得（ボランティア、寄付者など）



新規事業「馬×パン×絵本」のイメージ（来年度から着手）

新規事業のアイデア

馬 × パン × 絵本

福祉

困難を抱える若者

ゆるゆると関わりながら

耕作放棄地

馬糞の堆肥

小麦の栽培

馬耕

石窯

馬で間伐材を集める

薪づくりの仕事

地元の農家レストランと連携

製造場所として

コラボ商品

コミュニティづくり

絵本でイメージ共有

絵本カフェ

連携ポイント

プロボノ募集！

- 企画、戦略策定
- 広報、マーケティング
- 商品開発
- 営業マニュアル・ツール作成
- 写真、動画制作など

団体が提供

- メンタルヘルス向上
- ワークーション
(ワーク × ロケーション)
- 様々な社会課題





馬と共に、誰もが幸せに暮らせる地域を目指します！